

■学校経営のポイント

全国学力・学習状況調査の結果の活用

小島 宏

本年4月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果(以下調査結果)および「報告書(小中別、教科別+質問紙調査)速報版」が、国立教育政策研究所から7月28日に公表された。学校現場では、残念ながら相変わらず全国における順位と平均点に関心が集まっている。

そこで、今号では、授業の工夫改善と教師の授業力の向上の視点から考察する。

自校の児童生徒の学力の傾向の把握

まず、「調査結果」を参照し、自校の児童生徒の「良い点」や「課題(問題点)」、「新しく取り入れたいこと」などを把握する必要がある。

現行の学習指導要領では、児童生徒が次のような学力の中身(資質・能力)と、学び方を身に付けることを求めている。

○基礎的・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、主体的に学習に取り組む態度の涵養

○主体的な学び、対話的な学び、深い学びの一体的な実現

「調査結果」では、各教科の課題を指摘し、改善の方向性を示している。自校の実態に対応させて検討すると、授業の工夫改善や教師の授業力向上の視点と内容を明確にすることができる。

各教科における改善を要する主な事項

「調査結果」には、国語、算数・数学、理科における「調査結果のポイント」および「学習指導要領の内容別の主な特徴と指導改善のポイント」を端的に示している。

教科部会などで、これらの内容を自校の児童生徒の状況に照らして、改善の方向性を把握し、全教員で共有し、授業で意識して指導に当たりたい。

コロナ禍の影響で、対面授業が十分に行えず、オ

ンライン授業や動画による学習が導入され、それが調査の結果に少なからず影響を及ぼしている。

一方、次のような事柄も学び取ることができる。今後に生かしていくことが肝要である。

○ICT活用やデジタル教科書・教材を活用した授業や学習方法の開発が進められた。

○実験・観察、調査・見学などの実体験の重要性が改めて確認され、今後、充実させる必要がある。

○結果を求めて終わりではなく、解決の過程やその根拠などを考察・説明したり、レポートにまとめたりするなどの活動が必要である。

質問紙調査結果の活用

また、「調査結果」の質問紙調査結果にも注目したい。目を引いたいくつかの事柄を紹介する(要約引用)。授業の工夫改善の参考にされたい。

○自宅に本が多くある、読書好き、新聞をよく読む児童生徒ほど正答率が高い。考えを発表したり、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表したりしているほど、正答率は高い傾向がある。

○観察や実験を行う頻度が減少傾向にある。

○ICT活用が増え、児童生徒は役立つと思い、家庭でも利用している。教員は不登校や特別な支援を要する児童生徒の支援にも役立てている。

○4時間以上携帯電話やスマホでSNSや動画視聴などをする(機器を用いた学習時間やゲームをする時間を除く)児童生徒の平均正答率は低い。

校長のリーダーシップ

今回の全国学力調査は、以前にも増して充実し、多くの示唆を与えてくれる。順位や平均点に必要以上にこだわらず、校長はリーダーシップを発揮し、自校の児童生徒の真の学力の向上、それを可能にする授業のできる人材育成に意を用いたい。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●複雑な教師の専門性を、七つの「指標」で明解に整理 《好評発売中!》
あなたの授業力はどのくらい? デキる教師の七つの指標

ジェフ・C・マーシャル【訳】 池田匡史・雲財寛・吉田新一郎【編集】 四六判/280頁/定価2,640円

